



USB User's Guide

■ デジタル版"USB"の概要

このデジタル版は、書籍版「日本の空港」加除式原本を高解像度でPDF化し、専用USB（Data Contents Guard USB メモリ）に収めた航空図書の電子書籍です。書籍版の改定版で編集された紙ページの最新データを基本として、各ページをくまなくデジタル化しています。

このデジタル版の閲覧には、USBメモリに内蔵してある専用のPDFビューアを使用しています。お使いのパソコンなどに、アドビ・リーダーや他のPDF閲覧ソフトがセットアップされている必要はありません。

インストール不要ですので、Windows/パソコンやUSBポート(TypeA)が設置されているWindowsタブレットに装着するだけで、すぐにご利用いただけます。

USB挿入とともに自動起動がスタートし、「日本の空港」の地区別飛行場選択画面のトップページが開かれます。トップページから目的飛行場へとお進みください。

また、全てのページがそれぞれ独立したPDFファイルのため、軽量の専用ビューアにて、軽快にページ移動などの閲覧操作がスムーズにおこなえます。

なお、このUSBはスタンドアロン（1台のパソコン）環境下で動作します。ネットワーク経由でUSB内のデータを他のパソコンと共有することはできません。

■ バージョン情報

- ・ ver.24-02 加除式書籍版の改定版 rev.135(24/1/31) までの情報を掲載
(rev.135発行以降に発生した改定情報は含まず)

デジタル版USBの改定版は、加除式原本の"追録"同様に改定情報を"デジタル版USB"として定期的に有償で発行、販売しています。

アップデータ版USBの内容は新たな改定ページに加えて、全てのページがアップデータ作業の対象となります。弊社別商品デジタル版DVDの改定版仕様とは異なり、各改定版号数で継続してUSB本体のデータを最新にカバーしている必要はありません。AIP等により最新情報を常にチェックの上、ユーザーご自身がその希望改定時期を選択して、ある程度の時間的な余裕を持ってアップデータをおこなうことが可能です。詳しくはホームページのUSBのご案内から"改定版の販売"でご確認ください。

■ USBの仕様

- ・外形 66mm (55mm) x 21mm x 10mm
- ・材質 アルミ製 (スライドケース)
- ・重量 15g
- ・I/F USB 2.0 規格/Type-A
- ・カラー ブラック (黒色のみ)
- ・備考 Micro Type-BやType-C規格などのWindowsタブレットでは、延長ケーブルもしくはUSB変換アダプタに装着してご使用ください。
なお、タブレットによっては、変換アダプタなどの利用中に接続が突然解除されることがあります。
また、USB3.0規格などでも規格上は問題なくご利用いただけますが、100%の互換性がない場合があります。
(この商品には変換アダプタや延長ケーブルは付属していません)



■ 対応OS

- ・ Windows 11
- ・ Windows 10 32/64bit
- ・ Windows 8.1 32/64bit (動作可能、但しMS社のサポート終了のため対象外)
- ・ Windows 8 32/64bit (動作可能、但しMS社のサポート終了のため対象外)
- ・ Windows 7 32/64bit (動作可能、但しMS社のサポート終了のため対象外)
- ・ Windows Vista(SP2) 32bit (動作可能、但しMS社のサポート終了のため対象外)
- ・ Windows XP(SP3) 32bit (動作可能、但しMS社のサポート終了のため対象外)

■ はじめてUSBを挿入するとき

はじめて"デジタル版USBメモリ"をパソコンやモバイルPCに装着した場合は、USBメモリを使えるようにWindowsの大容量記憶装置ドライバソフトが自動でセットアップされます。この動作はOSの違いやお使いのソフトなどのパソコン環境により、すぐに終わる場合と数十秒かかる場合があります。

- ・ PC設定での自動再生を"OFF"にしている場合は、USBを挿入後にタスクバーのエクスプローラからUSBドライブ (USB_MEMORY) をクリックしてください。
- ・ PC設定での自動再生を"ON"にしている場合は、USB挿入と同時に自動的にUSBドライブのエクスプローラが開かれます。(参照：次項 PC設定での自動再生)

エクスプローラのタイトルバーには"USB_MEMORY"と表示され、フォルダ"setup" "Document"、ファイル"UsbStart.exe"、ファイル"Usb安全な取り外し.exe"がそれぞれ表示されます。「UsbStart.exe」をダブルクリックなどで起動させてください。



■PC設定での自動再生（この操作は必須ではありません）

<Windows 11 をご利用の場合>

- ・ Windowsロゴ → 設定 → Bluetoothとデバイス → 自動再生「ON」
- ・ リムーバルドライブ → フォルダを開いてファイルを表示（エクスプローラ）



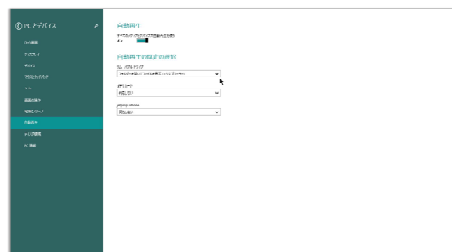
<Windows 10 をご利用の場合>

- ・ 設定 → Windowsの設定 → デバイス → 自動再生 → 自動再生「ON」
- ・ リムーバルドライブ → フォルダを開いてファイルを表示（エクスプローラ）



<Windows 8.1 をご利用の場合>

- ・ PC設定 → PCとデバイス → 自動再生「ON」
- ・ 自動再生の既定の選択 → リムーバルドライブ → フォルダを開いてファイルを表示（エクスプローラ）



■USBの初期設定へと進みます

（１）USBドライブのエクスプローラから「UsbStart.exe」をダブルクリックします。新規にUSBを挿入し「UsbStart.exe」を起動させると「Data Contents Guard」初期設定のダイアログが開かれます。

「Data Contents Guard」初期設定のダイアログが開かれない場合は、シフトキーを押しながら「UsbStart.exe」をダブルクリックするか、フォルダ"Setup"内にある「UsbSetting.exe」をダブルクリックしてください。

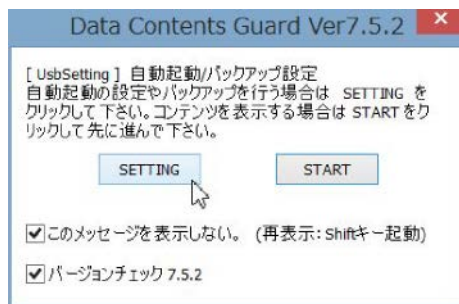
自動起動（UsbQuickStart.exe）がすでにセットアップされているときは、自動起動を一旦停止させます。「しばらくお待ちください」が消える前に、「キャンセル」ボタンを素早くクリックして「終了しますか？」から「はい」を選択してください。この操作は、新規ご購入後に改定版USBにてアップデート作業をおこなった場合には基本的に必要ありません。



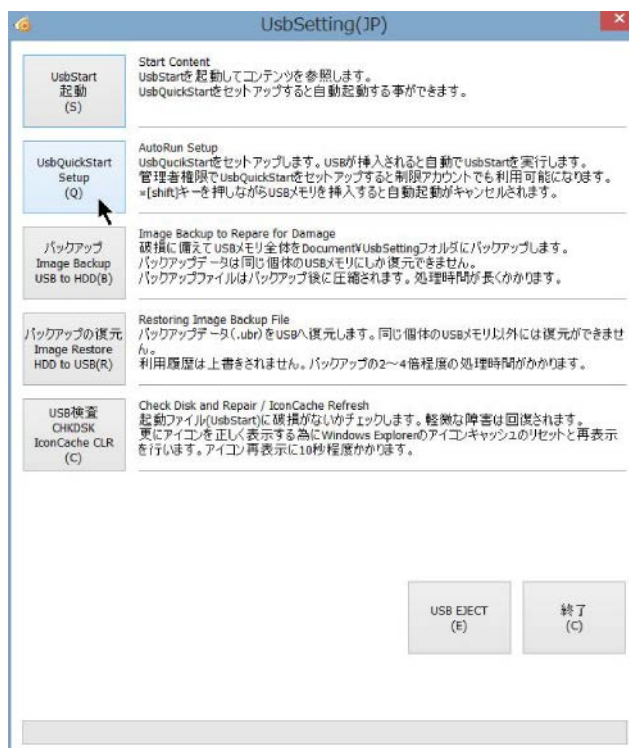
(2) 開かれた「Data Contents Guard」初期設定のダイアログから「このメッセージを表示しない」と「バージョンチェック」にチェックを入れ「SETTING」をクリックしてください。

「バージョンチェック」は必ずチェックを入れてください。初期設定時において、Windows Update に伴うUSBメモリの更新に必要となります。

また、このダイアログを再表示する必要がある場合には、前述の通りにエクスプローラ開示状態でシフトキーを押しながら「UsbStart.exe」をクリックすると再度起動させることができます。



(3) UsbSetting のダイアログが開かれます。「UsbQuickStart Setup」をクリックしてください。「UsbQuickStart」は、閲覧するコンテンツを素早く自動的に起動させるために必要なソフトです。



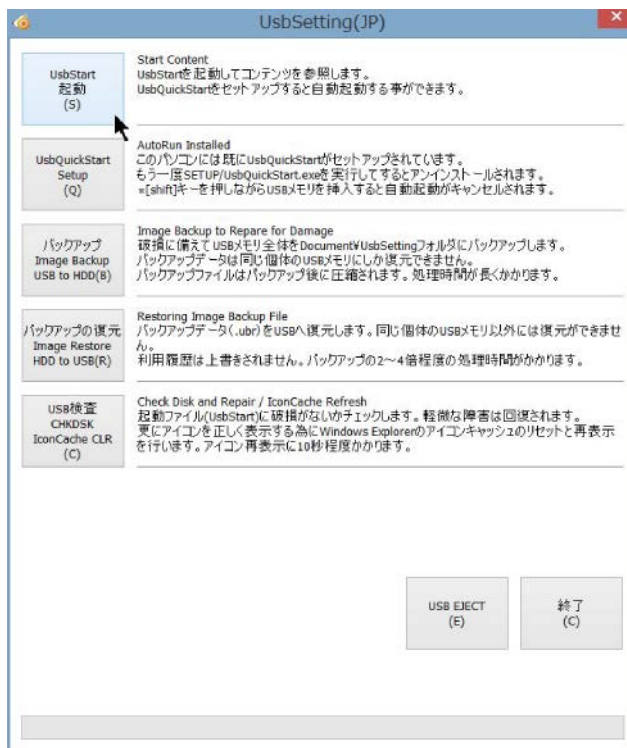
- (4) 自動起動 (UsbQuickStart) のセットアップ確認ダイアログが開かれますので、「はい」をクリックします。このソフトのセットアップは短時間で終了します。



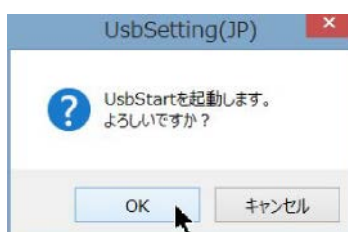
- (5) インストール完了のダイアログが開かれますので「OK」ボタンを押します。



- (6) UsbSetting のダイアログにもどりますので、最後に「UsbStart 起動」ボタンを押してください。



- (7) 「UsbStart を起動します。よろしいですか？」と問われますので「OK」を押してください。全てのUSBメモリの初期設定が完了し、自動的に次項「USBの起動と閲覧方法」へと進みます。なお、この設定は次回からのUSB挿入時には必要ありません。USB挿入とともに自動的にUSB起動とコンテンツ閲覧が開始されます。



■ USBの起動と閲覧方法

(1) 前述の初期設定で「バージョンチェック」にチェックを入れると、USBメモリの更新バージョンの確認ダイアログが開かれます。チェックを外すとこのダイアログは開かれずに、次項「しばらくお待ちください」のダイアログへと進みます。

更新不要の場合は、そのまま「OK」ボタンを押してください。

更新が必要な場合は、インターネット環境下でこれらダイアログの指示に従いUSBメモリのバージョンアップを行なってください。

なお、USB新規出荷時および改定版USBご返却時には「Data Contents Guard」の最新バージョンは確認済みです。また、新しいWindowsやWindowsUPDATEに伴うUSBバージョンのために、USB出荷時には自動更新機能をONに設定してあります。自動更新機能により、バージョンアップがそくされたときには、同様にバージョンアップしてください。



(2) 「しばらくお待ちください」のダイアログが表示され、USBの起動が自動で開始されます。次回からの起動はUSB本体をUSBドライブに装着するだけで特別な操作は必要ありません。USB装着とともに、このダイアログが自動表示され、次項トップページが自動で開かれます。



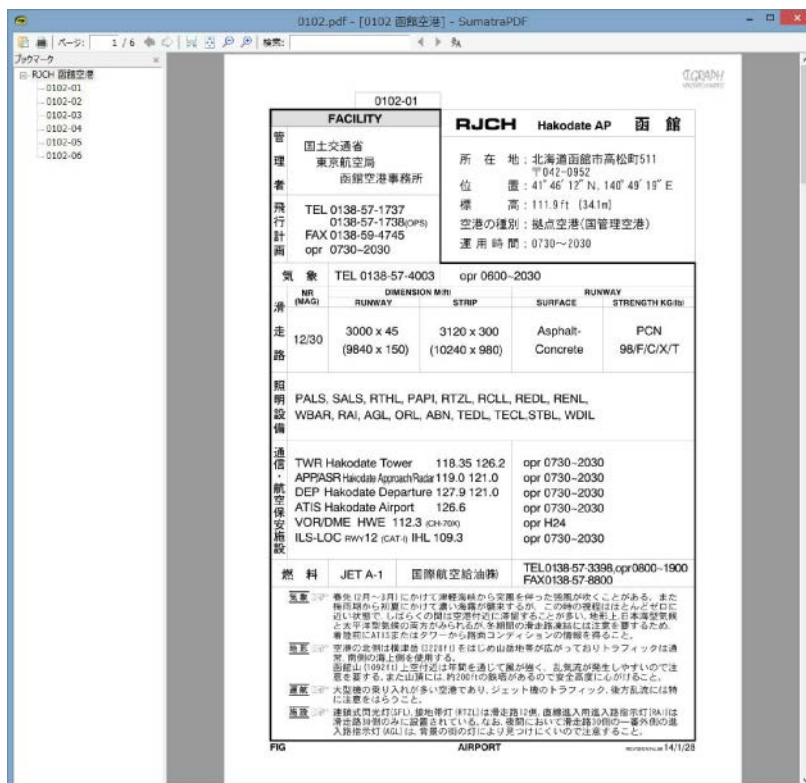
(3) 「日本の空港」デジタル版USBのトップページへと切り替わります。トップページの地区別ボタンから閲覧を希望する空港の地区名（全国計7地区に分類）を選択してください。「地区別インデックス」のページが別ウインドウで開かれます。



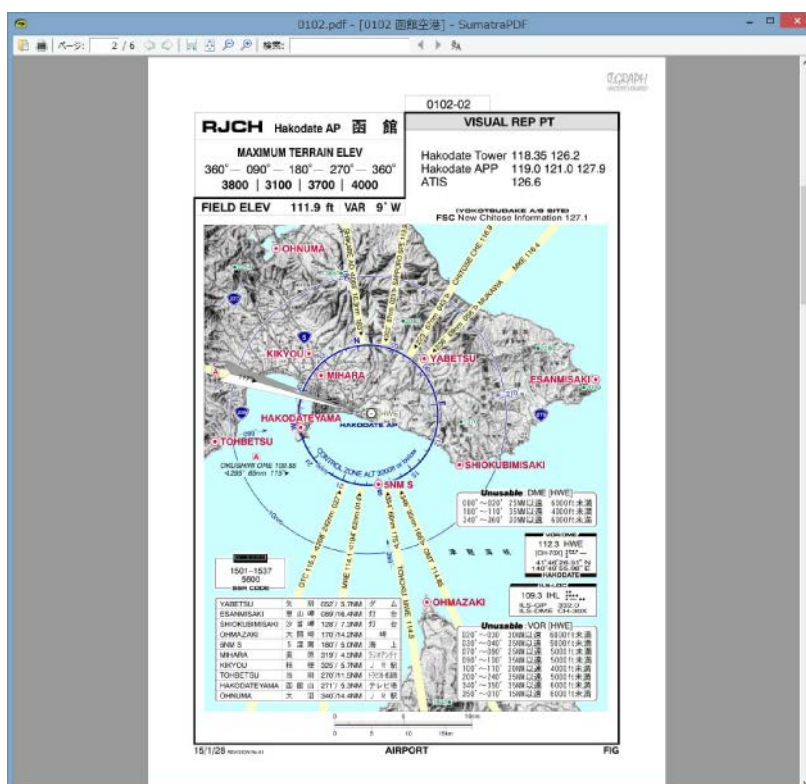
(4) 開かれた「地区別インデックス」から閲覧する目的の空港名やヘリポート名のボタンを押してください。



(5) 選択空港やヘリポートのトップページ (01ページ) が開かれます。ブックマーク (目次) やツールバーの「次のページ」「前のページ」アイコンにより他ページに切り替わります。印刷指示は、ツールバーのプリンターアイコンにより行なってください。

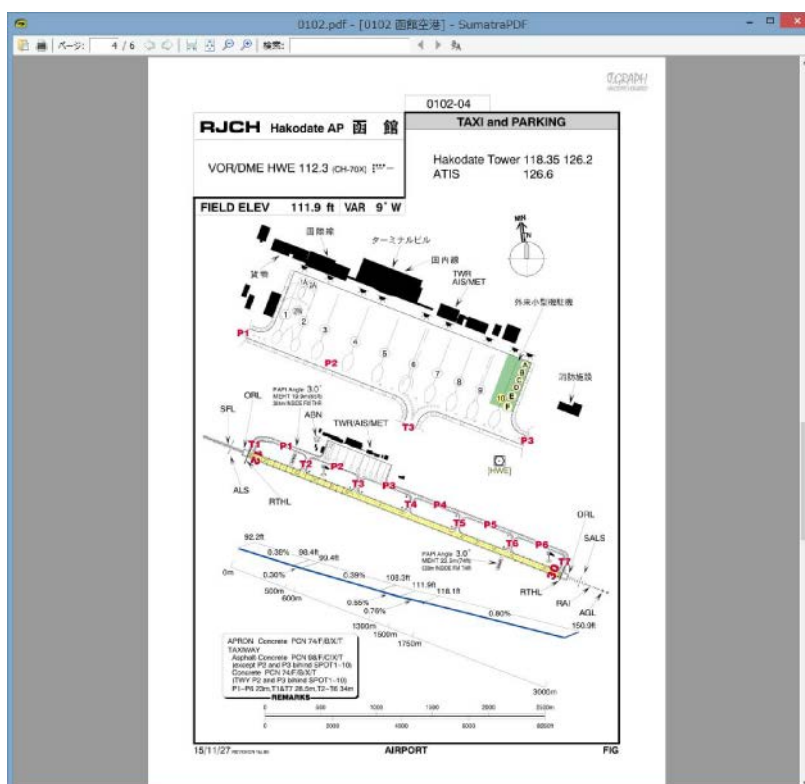
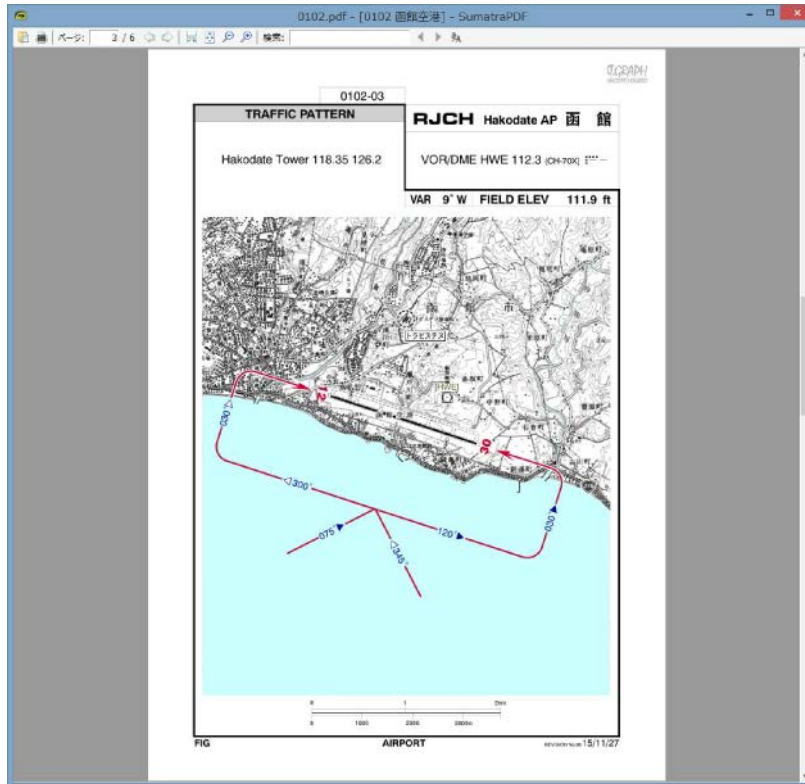


(6) 必要に応じてブックマーク (目次) を非表示にしてください。



(7) キーボード操作により次のショートカットでメニューバーなどを表示できます。

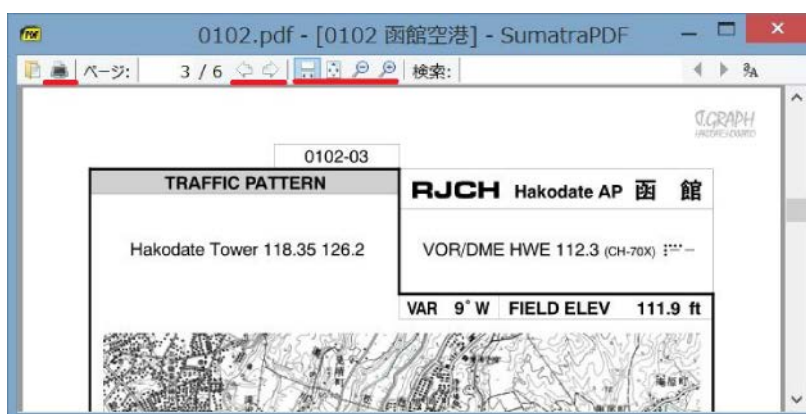
- ・ F8キー ツールバーの表示・非表示切り替え
- ・ F9キー メニューバーの表示・非表示切り替え
- ・ F11キー 全画面の表示・非表示切り替え
- ・ F12キー ブックマーク（目次）の表示・非表示切り替え



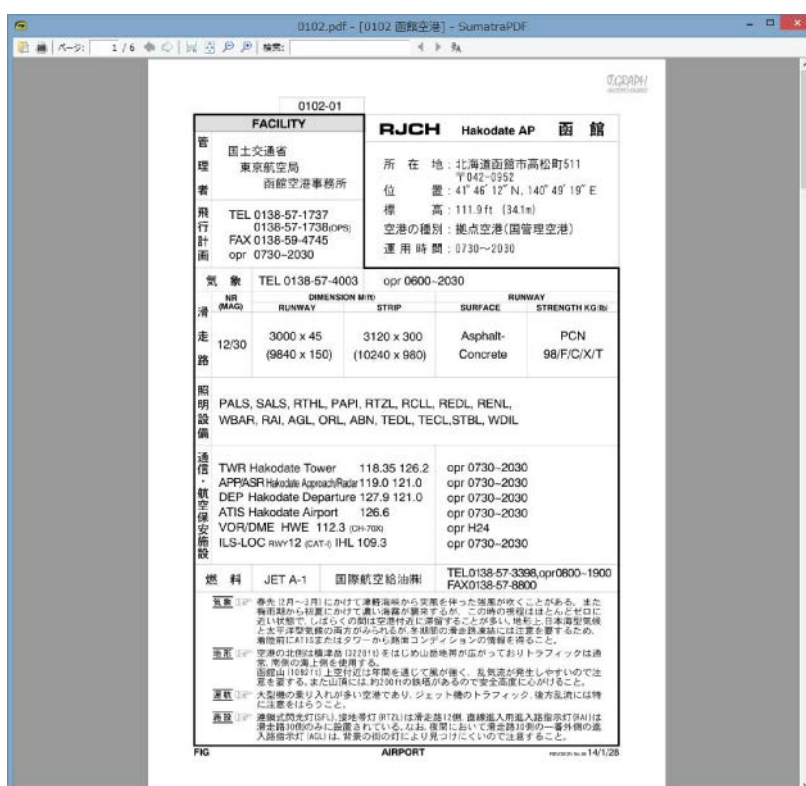
(8) スライドによるスクロールなどにより、各ページへと簡単に移動できます。必要に応じてピンチまたはストレッチにより拡大・縮小表示してください。ツールバーのページ移動アイコン (← →) から各ページへと移動できます。同じく、ツールバーの拡大・縮小アイコンや幅に合わせて連続してページを表示するなどの各アイコンで、それぞれ快適な表示サイズ、スタイルでご使用ください。

このUSBには、ソフト的に軽量で起動が早く、高速で動作する専用のPDFビューアを内蔵しています。全てのファイルはこの専用ビューアで開かれます。この専用ビューアは、閲覧終了とともにUSBメモリの開放も早く、安全な取り外しがスムーズにおこなわれ、またトラブルが少ない特徴があります。

そのため、閲覧中はAcrobat ReaderやWindows Edgeなどで他のPDFファイルを同時に開くことはできませんが、スクリーンショットなどでのイメージの保存はできません。閲覧を終了し、USBメモリを取り外すと、これらの制限事項は開放されます。



(9) 閲覧中の各空港ページなどを終了したい場合は、ウインドウのタイトルバーの「閉じる」(赤×)をクリック(タップ)してください。



(10) 閲覧を終了し、USBメモリを取り外す場合は、毎回 Windowsの「ハードウェアの安全な取り外し」操作をおこなう必要があります。

USBメモリは電源が切れている状態で抜くか、電源がついている場合は安全な取り外し操作が必要となります。正しい操作をおこなわない場合、次回使用する時にパソコンにUSBが認識されなかったり、USB内の保存データが壊れる恐れがあります。Windowsの基本的な「ハードウェアの安全な取り外し」を操作して、USB本体を安全に取り外してください。

なお、USBメモリ内の「Usb安全な取り外し.exe」でも同様に安全な取り外しができます。その場合、安全な取り外しが確認されると「UsbRemove」が表示されます。USBメモリをいきなり抜くようなことを繰り返しますと、タイミングなどによってはWindowsのデバイスマネージャーで一時停止され、USBメモリが認識されない事象が生じることがあります。ご注意ください。

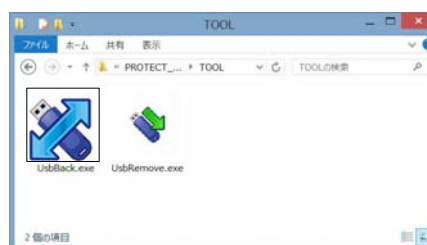


(11) USB装着のまま、継続して閲覧する場合には開かれているデジタル版USBのトップページ（全国の地区名選択インデックス）は閉じることなく、開いたままの状態にしてご使用ください。（推奨）

USB装着状態で、開かれているトップページを完全に閉じてしまうと、継続して別の空港名やヘリポート名を選択できません。

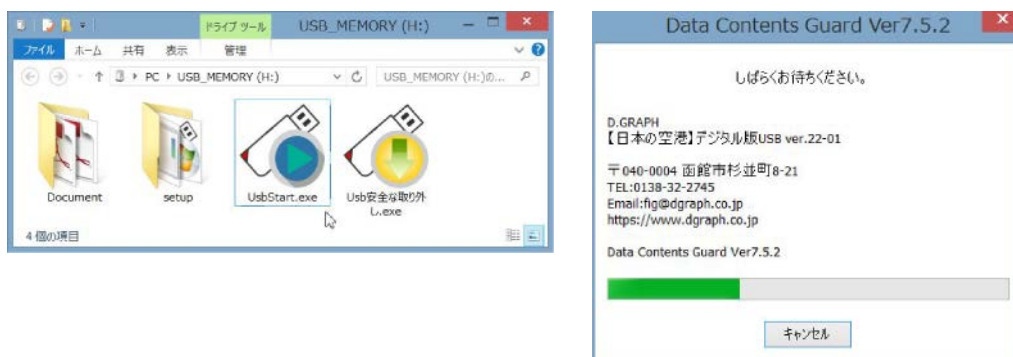
その場合、同時に開かれているUSBドライブのエクスプローラから、TOOLフォルダを選択して「UsbBack.exe」を起動させてください。USBを取り外することなく、USB挿入時の初期エクスプローラ画面に移動することができます。移動後、再度開かれているエクスプローラ内の「UsbStart.exe」から自動的にトップページを表示させてください。

また、一度USBを完全に取り外しても、再度USBドライブへと装着することにより、同様の自動起動操作がおこなえます。なお、一覧表示されているUSBメモリ内のフォルダやファイルは、USBを取り外すと同時に表示画面から自動的に消えます。



- ・ Protectフォルダ：デジタル化した「日本の空港」PDFファイルの格納フォルダ
- ・ SumatraPDFフォルダ：専用PDFビューアソフトとその関連ファイルを収納
- ・ Usb安全な取り外し.exe：UsbRemove.exeを日本語化したファイル
- ・ TOOLフォルダ：UsbBack.exe（USB挿入時画面に戻す）と UsbRemove.exe

(12) USBを再装着すると「USB_MEMORY」のエクスプローラが再度表示され、自動でトップページ（全国の地区名選択インデックス）のPDFが立ち上がります。



- Documentフォルダ：「はじめにお読みください.pdf」や「バージョン情報.pdf」などのドキュメントを収納してあります。これらのPDFファイルは、このUSBメモリ内の専用ビューアソフトではなく、ユーザー既定のPDFビューアソフトやOS標準ブラウザなどで立ち上がります。
- setupフォルダ：USBを自動で起動させるために必要な「UsbQuickStart.exe」や初期設定での起動やバックアップなどに必要な「UsbSetting.exe」などを収納してあります。
- UsbStart.exe：USBを初期起動させるためのソフトです。
- Usb安全な取り外し.exe：UsbRemoveを日本語化したファイル

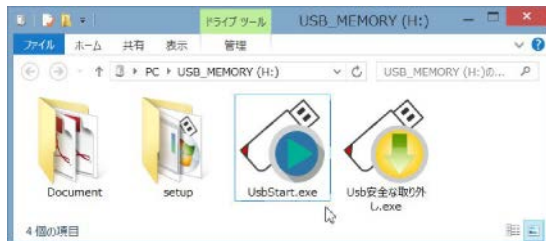


■ USBのバックアップ

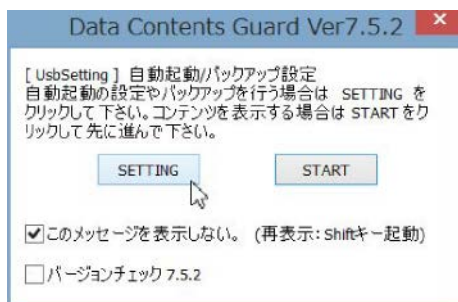
(1) 新規ご購入時および改定版USBのご返送時には、初期設定などの作業完了後に破損に備えてUSBメモリ全体のバックアップをおこなうことをお勧めします。

最初に「UsbStart.exe」をダブルクリックしてください。

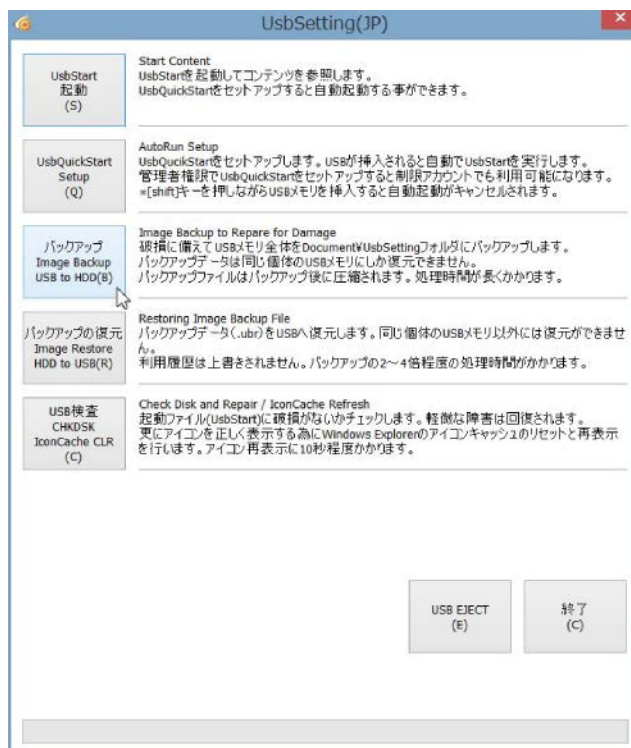
自動起動 (UsbQuickStart.exe) をすでにセットアップしているときは、自動起動を一旦停止させます。「しばらくおまちください」が消える前に「キャンセル」ボタンを素早くクリックして「終了しますか?」から「はい」を選択してください。



(2) SETTING ボタンをクリックします。このダイアログが表示されない場合はシフトキーを押しながら「UsbStart.exe」をダブルクリックするか、「setup」フォルダ内にある「UsbSetting.exe」をダブルクリックしてください。



(3) UsbSettingダイアログから「バックアップ」ボタンをクリックしてください。



(4) バックアップは処理時間が長くなります。バックアップ終了までUSBにアクセスせずにお待ちください。バックアップデータの保存場所は、C¥User¥(アカウント名)¥Documents¥UsbSettingフォルダです。このフォルダ内に拡張子(.ubr)で保存されます。

なお、バックアップデータはご使用のUSBメモリにしか復元できません。

バックアップファイルは圧縮して保存されますが、Cドライブには一時的にUSBと同じ空き容量が必要となります。未加工時、容量4GBのUSBメモリを使用しています。ハードディスクバックアップは何度でも実行できますが、過去のバックアップに上書きし常に最新のみを残します。

処理時間はHDDよりもSSDの方が早く、圧縮は高スペックで速いパソコンの方が時間的に短縮できます。

パソコン環境にもよりますが、このUSBメモリの場合は5分～20分ほどかかります。

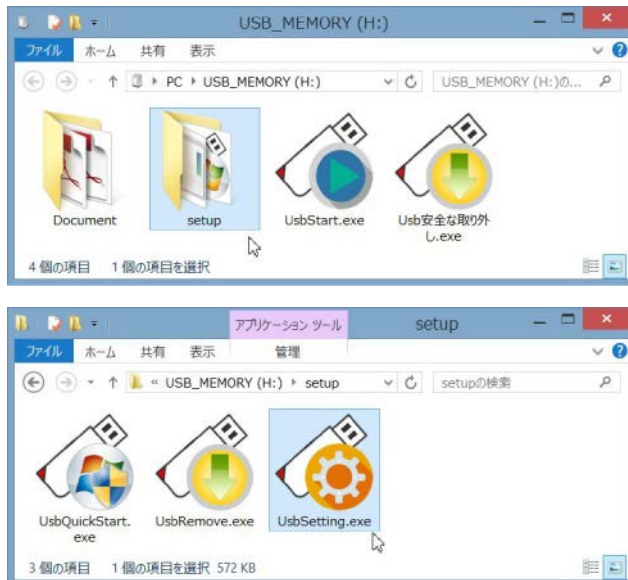
(実施例：Windows 8.1 32bit、CPU i7 3.5GHz、RAM 4GB → Backup 12分)

また、バックアップ中にパソコンがシャットダウンやWindowsUPDATEが入るとバックアップが失敗します。失敗した場合は再度バックアップを実行してください。

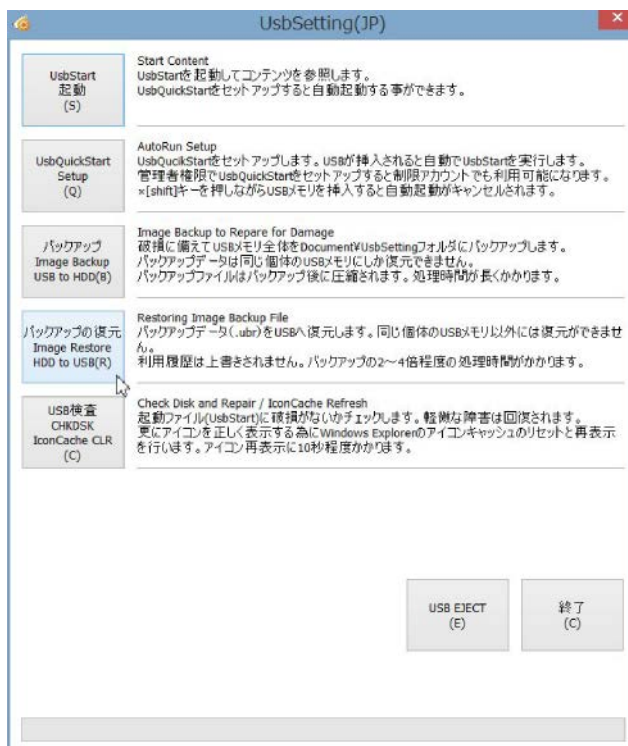
バックアップ中、USBメモリにアクセスしなければ、Webページの閲覧やメール受信など他のパソコン操作は可能です。

■バックアップの復元（トラブル発生時にバックアップ時点にUSBを戻す）

（１）バックアップデータ(.ubr)をUSBへ復元します。ご使用のUSBメモリ以外には復元できません。USBを挿入し、USBドライブのエクスプローラから、setupフォルダ内にある「UsbSetting.exe」を実行してください。

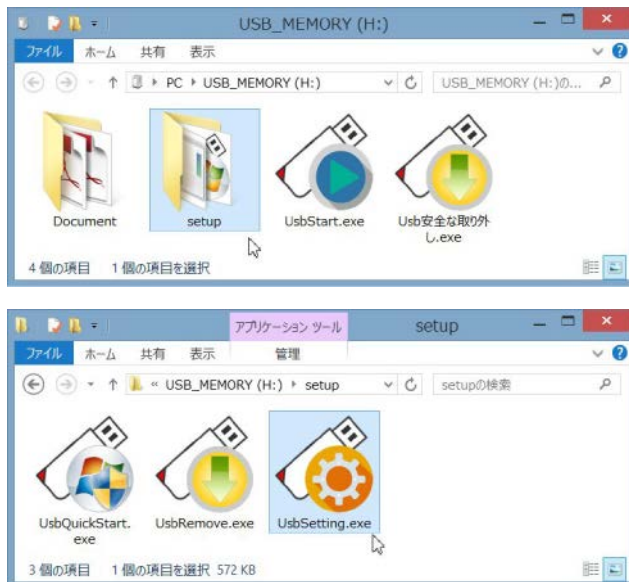


（２）UsbSettingダイアログから「バックアップの復元」ボタンをクリックしてください。USBメモリの特性により、書き込み処理の復元はバックアップの読み込み処理より多くの時間を要します。（バックアップに要した時間の2～4倍程度）
（実施例：Windows 8.1 32bit、CPU i7 3.5GHz、RAM 4GB → 復元 24分）
なお、圧縮保存されているバックアップファイルは、復元するときに解凍されます。そのためにCドライブにはバックアップ同様に、一時的にUSBメモリと同じ空き容量が必要となります。この復元処理中はUSBにアクセスしないでください。

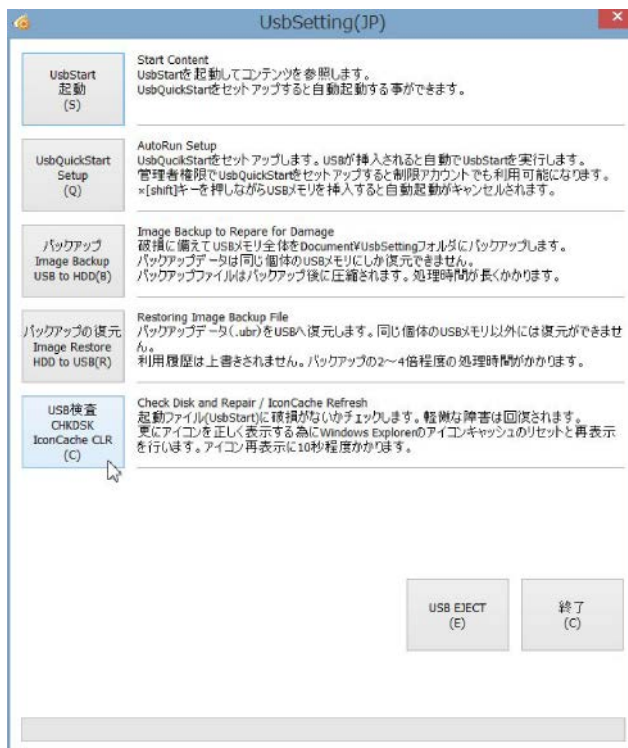


■ USB破損検査（チェックディスク）

（１）起動ドライブのUsbStartを含むUSBのシステムファイルの検査、修復機能です。軽微な障害はチェック後に回復されます。USBを挿入し、USBドライブのエクスプローラからsetupフォルダ内にある「UsbSetting.exe」を実行してください。



（２）UsbSettingダイアログから「USB検査」ボタンをクリックしてください。



（３）検査終了後、USBメモリを取り外すときは、破損防止のためにUSBの安全な取り外し操作をおこない「安全に取り外せます」のメッセージを確認してから取り外してください。UsbSetting ダイアログ内の「USB EJECT」からでも安全な取り外しができます。

■ USB使用上の注意

(1) USBはいきなり抜かないでください。

USBメモリは、パソコンの電源が切れている状態で抜くか、電源がついている状態では「USBの安全な取り外し操作」が必要となります。USBをいきなり抜くようなことは絶対にしないでください。

(2) コピー＆ペーストおよびスクリーンショットができません。

USB内のコンテンツ保護のため、クリックボードの禁止機能および画像キャプチャ禁止機能をONにしてあります。クリックボードの禁止はWindowsのクリックボード機能を禁止してありますので、全ての操作でコピー＆ペーストが働きません。同じくスクリーンショット機能も働きません。これら制限はUSBメモリを取り外すとともに解除されます。

(3) フォーマットは不要です。

USB装着時にパソコン動作に一部制限がかかり、希望するパソコン動作ができない現象はUSB設定上に関することが多くフォーマットとは関係ありません。

(4) USBは丁寧に扱ってください。

- ・ USBメモリを取り外すときは適切な操作手順が必要です。これらをおこなわない場合はタイミングによりデータの消失や破損を伴うことがあります。
- ・ USBの寿命は無限ではありません。ご利用状態により異なりますがデータ保持期や書き換え回数にはUSB自体としての寿命があります。USBに強い衝撃を与えたり、無理な装着や抜き取りをしないようにしてください。
- ・ パソコン側のUSB接続口が緩い、または硬い場合があります。そのような場合には他のUSBポートをご使用ください。
- ・ 冬季や乾燥する時期など静電気が発生しやすい時期での取り扱いには注意してください。

■ セキュリティソフトとの競合

ご使用のパソコンにセットアップされているセキュリティソフトによっては、ウイルス誤検知でUSBソフト「UsbStart.exe」が削除されたり、ウイルス判定検査に時間がかかり起動が遅くなるなどの現象が出る場合があります。

この商品のUSB機器製造メーカーでは、定期的に様々なセキュリティソフトとの相性検査をおこなっていますが、全てのバージョンでの検証作業はおこなっておりません。

このUSBメモリでは、セキュリティソフトの「avast」をセットアップしているパソコンの場合、障害が多いことが報告されています。障害内容は、検査時間が長い、ミス操作を誘導しやすい、他社製の何らかのソフトとの組み合わせでブルーバックスクリーンになりフリーズする等々です。そのために「UsbStart.exe」実行時には「avast警告詳細」で使用中止の警告ダイアログが特別に表示されるようになっています。avast（アバスト）がセットアップされたパソコンではご使用になれませんのでご注意ください。

■ USBメモリが急に認識しなくなった場合

(1) USBメモリの抜き差しを繰り返していると、タイミングによりWindowsのデバイスマネージャーで一時停止され、USBメモリが認識されない場合があります。この場合は、認識しないUSBメモリをパソコンに差し込んだ状態でデバイスマネージャーを確認してください。ユニバーサルシリアルバスコントローラーを展開し、黄色のアイコンが表示されている場合は、そのUSBドライバが停止しています。"Windowsキー"と"X"を同時に押してデバイスマネージャーを選択してください。

(2) この現象は以下により確認できます。

- ・ 特定のパソコンのみ「USBメモリ」を装着しても何も反応しない。
- ・ 他のUSBメモリは正常に利用できる。この「USBメモリ」だけが利用できない。
- ・ 反応しない「USBメモリ」は他のパソコンでは利用できる。
- ・ この「USBメモリ」は以前までは問題なく利用できた。

(3) デバイスマネージャーから展開したユニバーサルシリアルバスコントローラーの黄色のマークのデバイスを右クリックメニューにより削除後、USBメモリをもう一度装着してください。USBメモリを再度装着することにより、USBドライバが自動的に再セットアップされます。再セットアップにかかる時間はパソコン仕様により異なりますが、Windows 8.1/10 では概ね2～3秒程度でセットアップされます。

(4) ドライバとは、OSとパソコンに接続する全ての機器とのやりとりを制御する管理ソフトです。USBメモリやマウス、キーボードなどはWindows標準ドライバが自動セットアップされてから利用することができます。

USBメモリのドライバは一つではなく複数セットアップされます。通常は2～3程度のドライバがセットアップされますが、バックアップソフトなどを使っている場合は更に追加される場合があります。

複数のドライバがセットアップされる場合、セットアップ中にUSBメモリが抜かれると完全にセットアップが完了されていない状態のために、デバイスマネージャーでそのデバイスを停止させることがあります。

USB装着後は、USBドライバがセットアップされるまでタイミング的に余裕を持ったUSB操作を推奨します。